

平成18年6月26日洪水に係る松原ダム・下釜ダムの調節効果について

【速報推計】

今回の洪水は、松原ダム・下釜ダムで約 1,198千m³を貯留したことで、最大調節時、日田市の小淵地点で0.24mの水位低減効果を発揮したものと推測しています。

梅雨前線の影響により、松原ダム、下釜ダム流域では6月21日夜から雨が降り始め、26日7時までの累計雨量は松原ダム周辺流域で359mm、下釜ダム周辺流域で394mmに達しました。

このため、松原ダムでは流入量が700m³/sに達した26日8時8分より洪水調節を開始し、26日8時27分にはピーク流入量769m³/sに対して、60m³/sをダムに貯留し709m³/sを放流しました。また、下釜ダムでは、流入量が350m³/sに達した26日5時51分より洪水調節を開始し、26日7時4分にはピーク流入量527m³/sに対して、180m³/sをダムに貯留し347m³/sを放流しました。

問い合わせ

国土交通省 九州地方整備局

筑後川ダム統合管理事務所

管理課長 松本 信之

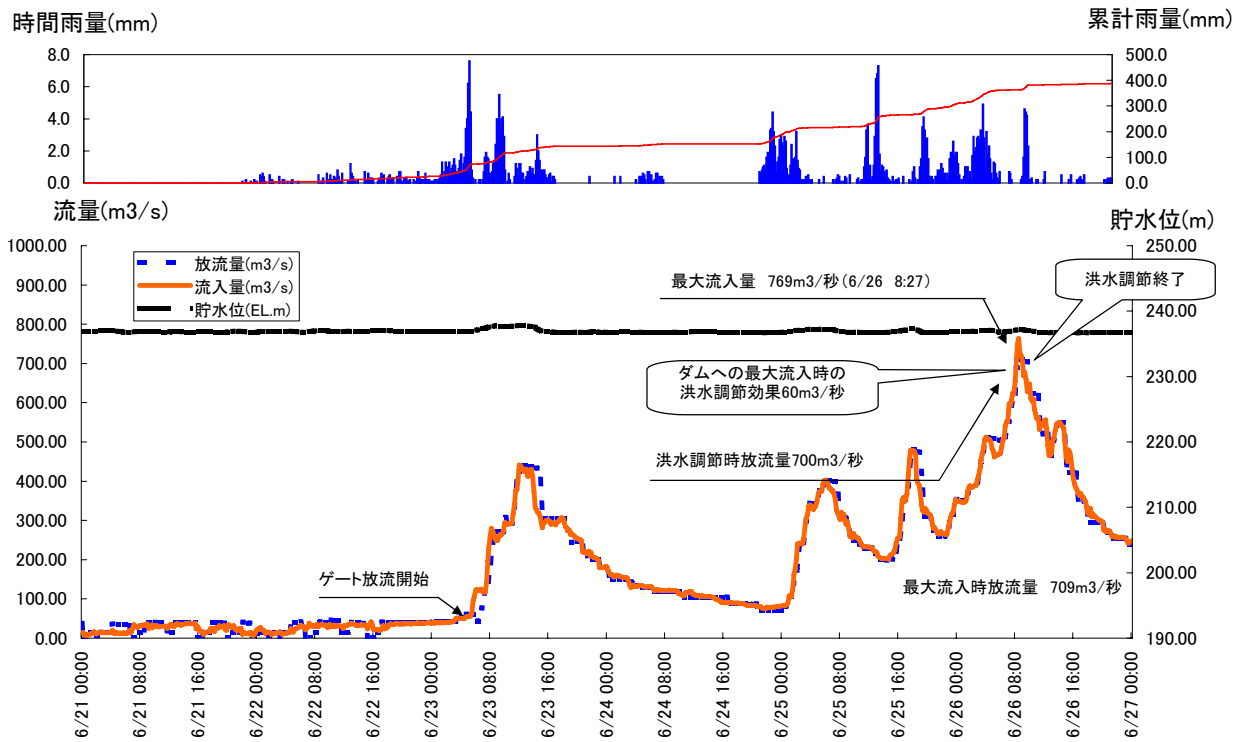
TEL 0942-39-6651

内線 331,332

1. 松原ダム、下笠ダムの貯留状況

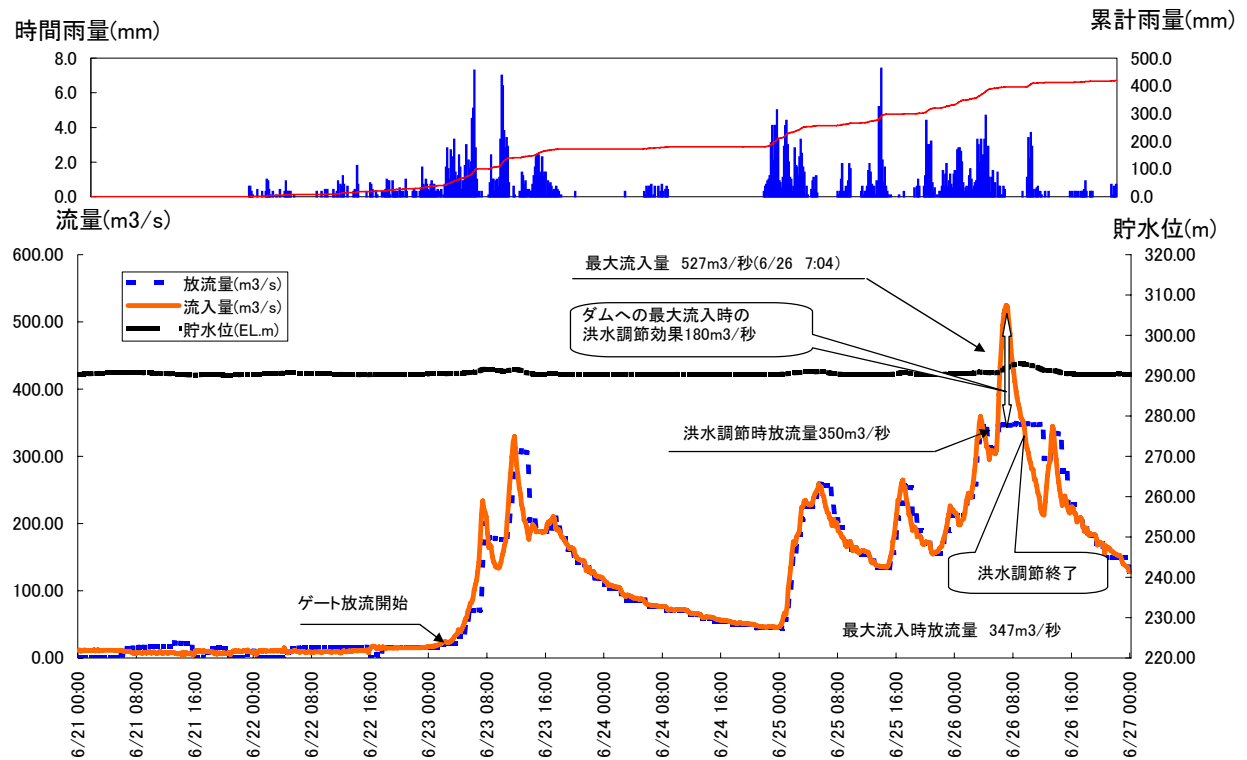
①松原ダム

松原ダムにて約78千立方メートルを貯め込みました。



②下笠ダム

下笠ダムにて約1,120千立方メートルを貯め込みました。

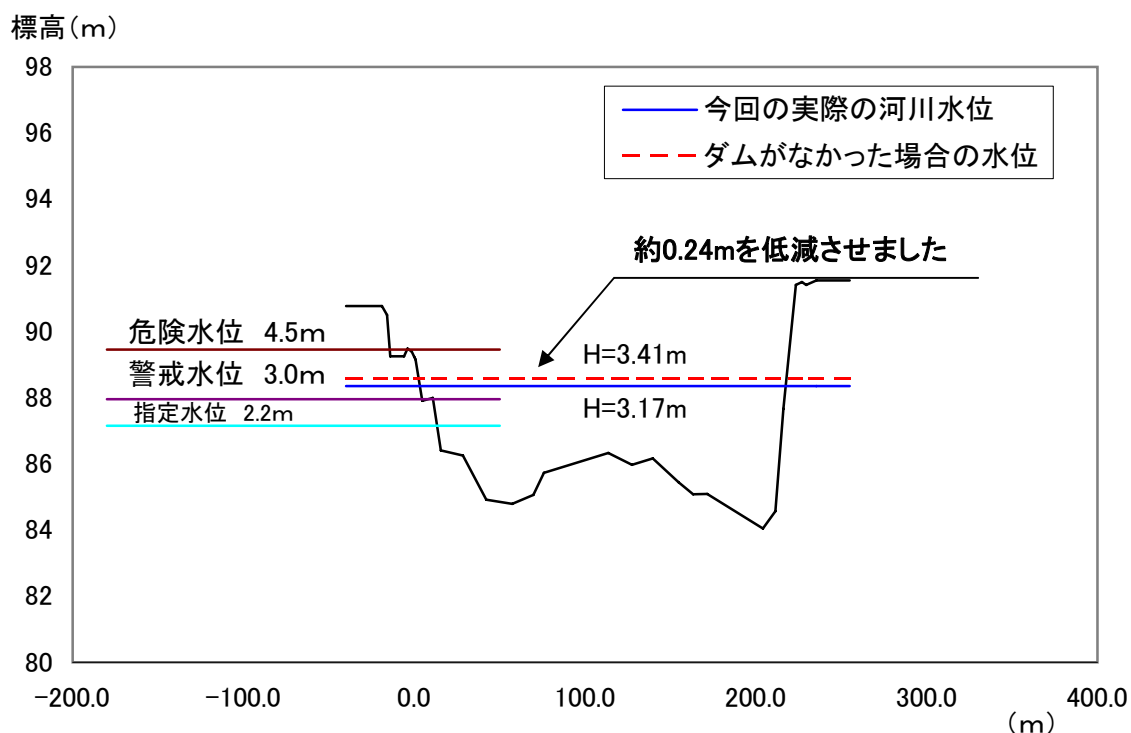


2. ダムの最大調節量時における調節効果

1) 日田市小淵地点

①ダム最大調節量時における調節効果

松原ダム・下笠ダムによって約0.24mの水位逶減効果がありました。



2) 日田市小淵地点平面図



※降雨などによって河川の水かさが増し、水防関係者が水防活動の準備を始める水位のことを**指定水位**、災害の恐れがある水位のことを**警戒水位**といい、さらに水かさが上昇し氾濫の恐れがある水位のことを**危険水位**といいます。